

第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アスク吉野町保育園
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所	〒 232 - 0013 横浜市南区山王町3-24-8 港横浜ビル1階
設立年月日	平成19年4月1日
評価実施期間	平成24年6月～24年10月
公表年月	平成25年 4月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
【施設の特色】	
1.立地上の特色	
<p>平成19年に開園し、0～5歳児を対象にした定員48名、現在籍54名の保育園である。横浜市営地下鉄吉野町駅より徒歩2分で、東京、川崎、横浜への交通の便がよく、保護者には便利である。周囲は古い商店とマンション、会社などが混在しており、7階建てビルの1階部分を使用し、人通りは少なく閑静な場所に立地している。</p> <p>園庭はあまり広くはないが、近隣には公園が多く点在し、子どもの年齢に合わせて散歩コースとして活用している。</p>	
2.多様なプログラム	
<p>設置法人グループ内から派遣される専門講師による英語、体操、リトミック教室など保育プログラムを実施し、子どもたちは異文化に触れたり、思い切り体を動かしたり、音楽に合わせて自由な表現活動を楽しんでいる。</p>	
【特に優れていると思われる点】	
1. 保育理念や基本方針を保護者に伝える努力	
<p>前年度の第三者評価の家族アンケート結果を踏まえ、園の運営理念や基本方針を認知、理解されるよう努力している。園だよりやクラスだよりで方針に沿った保育内容や取り組みを伝えたり、クラスだよりに、子どもの普段の様子や成長ぶり、職員の思いなどを分かりやすく丁寧に記している。また、運営委員会、クラス懇談会で保育理念、保育方針を説明する際、大きく書いた模造紙を用意して掲げ、視覚からも情報が入るよう工夫した。その結果、理念や方針の認知度は70%から86%と上昇した。</p>	
2. 小規模園の良さを活かした職員間の連携	
<p>ワンフロア型の施設であることから、朝夕の合同保育や月1回の計画的な縦割り保育、朝の会、誕生会など、自然に異年齢の子ども達に関わり合いを持っている。職員は子どもの対応について情報を共有して統一した対応が取れるよう連携を図っている。午睡時に早く目がさめ、ぐずっている乳児に手の空いている職員が抱っこしてあやしたり、お泊り保育を機に仕切りを取り払ったスペースで子どもたちと一緒に遊び、職員は日常的に話し合いを大切にして、振り返る機会</p>	

を持つなどワンフロアならではの良さを活かして職員間の連携を図っている。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 子どもが主体的に活動できる環境構成の見直しを

おもちゃやさんごっこ遊びの道具などの置き場所として2～5歳児保育室の一角に棚が設けられていますが、子どもの成長や発達に合わせ、自分で取り出して好きな遊びができるように、さらなる遊びの環境構成と、遊具の種類や量について見直しが期待されます。

2. 子どもや保護者が安心できる職員体制を

必要な人材の補充は園長が逐次設置法人に申請して確保していますが、年間の職員異動が多く、正規職員の平均在園年数は2年余りとなっています。そのため4月の進級時には子どもが不安定になるとの保護者意見が複数寄せられています。子どもや保護者が安心できる職員体制の構築が期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

- 保育理念を「安全と安心を第一に」「お子様にとっていつまでも思い出に残る施設であること」「本当に求められる施設であること」とし、園目標は「物を大切にしましょう」「元気にあいさつをしましょう」「地球環境問題に取り組む」の通り、利用者本人を尊重したものとなっている。
- 子どもの呼び方を含む言葉遣い、言葉かけ、接し方を職員会議で振り返り、職員一人一人の子どもへの対応の見直しをしている。職員は、穏やかでゆったりとした言葉で子どもたちに話しかけている。
- 子どもの意思を尊重し、気持ちに寄り添い、子どもを尊重した保育を行うことを、全職員が確認しあっている。
- 事務室やおもちゃ置場の前を子どもが一人で落ち着いて過ごせる空間として利用している。
- 職員入社時に個人情報のあり方や守秘義務の重要性を説明、確認している。保護者には個人情報の取り扱いについて家庭調査票で各保護者の同意の有無を記載してもらい確認している。
- 職員会議やフロア会議で性差に関して無意識に言葉に出していないかなど確認し、気をつけるようにし、日常の保育の中で、性別による区別は行っていない。
- 虐待対応マニュアルがあり、虐待の定義や早期発見のポイントなどは入社時の研修で学び、職員会議で話し合う機会を設けたり、研修に参加したりして、全職員に周知されている。虐待が疑わしい場合や明白になった場合は中央児童相談所や南区こども家庭支援課、設置法人に迅速に通告・相談する体制を整えている。

2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- 各保育室に絵本の棚を設けてあり、2～5歳児の幼児フロア共有のおもちゃの棚がある。手作りおもちゃや、糸通し、おままごなどを用意し、年2回入れ替えを行っている。3～5歳児の保育室の仕切りをなくし、身体を使う遊びをしたり、マットを敷いてブロックや電車、ままごなどの遊びを分けたりしている。
- パーテーションやサークル、ロッカーなどを使用して保育室を仕切り、小集団保育が行われている。建物の構造上、食べる、寝る、遊ぶの機能別の空間の確保は難しいが、給食の後、清掃してから布団を敷き、カーテンを引いて照明を落として薄暗くし、静かに眠ることができるよう環境づくりに配慮している。5歳児が午睡をしない時期になると保育室の配置を変更

- し、入口近くに5歳児室を移動して、他クラスの騒音にならないよう配慮している。
- 空き箱やダンボールなど廃材利用して制作したり、「お手紙ポスト」でお手紙ごっこを楽しんでいる。また、夏には週2回のプール遊びや色水遊びや泡遊びをしている。
- 園庭でピーマン、ブロッコリー、オクラなどの栽培を行い、収穫したものは給食の食材やクッキング保育の際に子どもたちに提供されている。また、5歳児クラスで、金魚を飼育し、生命の大切さを学んでいる。
- 職員は子ども同士のケンカは危険のない限りは見守り、子ども同士で解決できるように援助している。
- 天気の良い日は屋外で遊び、雨の日も室内でマット、巧技台を使用して体を動かしている。
- 給食については、子どもの喫食状況や健康状態に応じて、盛り付け量を加減したり、「にんじん頑張れるかな」など声かけし、楽しく食べられるよう配慮している。また、離乳食は自分から食べようとする気持ちを大切に、スプーンを嫌がる子は手で食べることも自由に行っている。また、皿、茶碗は割れにくい強化磁器を使用し、成長、発達に応じた茶碗の大きさ、スプーンでもすくいやすいような深さの違う皿など使い分けている。食具もスプーン、フォーク、箸と一人一人の段階を踏まえて使用している。
- 2歳児から年齢に応じた当番活動で、配膳や食器の片付けなど楽しみながら関わっている。5歳児のお泊り保育では、育てた野菜を使用した食事作りを通し、調理への関心を育てている。
- 毎月の献立表は前月末に保護者に配付し、毎日の献立とサンプルを玄関に展示している。給食日よりでは人気献立はレシピを紹介している。年1回、給食試食会を行い、年齢に合った食材形態、味付けなどを保護者に伝えている。
- 午睡時には、0歳児は5分間隔、1歳児は10分間隔で呼吸と体位の睡眠状況を記録し、乳幼児突然死症候群対策を行っている。
- 一斉活動の前後や昼食前、午睡前など声かけして、トイレ誘導しているが、自立している子は自分のペースやタイミングでトイレに行っている。トイレトレーニングは保護者と連携しながら進めている。おもらしをした子にはさりげなく対応している。

3. サービスマネジメントシステムの確立

- 運営方針は子どもの「自ら伸びようとする力」「後伸びする力」を育てる保育を、子どもの感受性や好奇心を自然な形で伸ばす「五感で感じる保育」の充実をとし、保育課程は、理念・運営方針に基づき子どもの最善の利益を尊重し、地域や周囲の環境も考慮して作成している。
- 保育課程に基づいて、年齢ごとに年間・月間指導計画、週案を各クラスの担任が作成している。年間指導計画は4期に分けて作成し、月間・週案共に評価・反省して、次の計画に活かしている。経験年数が浅い職員が多いが、子どもの主体性を育てるよう指導計画作成時に話し合っている。
- 入園前に保護者と個別面談をし、子どもの気になる点や既往症、食物アレルギー、離乳食の進み具合などなどについて聞き記録している。
- 0～2歳児までは個人の連絡ノートで、3歳児以上はクラスノートで毎日の保育の様子を伝えている。3歳児以上でも要望があれば個人の連絡ノートで情報交換している。
- 特に配慮を要する子どもの受け入れは、南区こども家庭支援課や設置法人の臨床心理アドバイザーと連携しながら、ケース会議で職員が話し合い情報を共有している。ケース会議に出席しなかった職員には議事録で周知している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーのある子どもは、かかりつけ医の指示書を入園時に提出してもらい、半年に1回、指示書を更新するとともに、保護者との連携を密にとり、除去食や代替食を提供している。職員はアレルギーに関する研修を受け、職員会議で情報を共有し保育に活かしている。 ・外国籍や帰国子女に関しては、文化や生活習慣、考え方を入園前や年2回の面談、送迎時に保護者から聞き、異なる文化を尊重し、柔軟に対応することを心がけている。意思疎通の困難な子どもに対しては、ゆっくり話をしたりジェスチャーで伝え、保護者にはひらがなで連絡事項を伝えたり、配布物を読んで説明するなど対応している。 ・入園前の説明会や入園時に配付する「入園のご案内（重要事項説明書）」に設置法人や南区こども家庭支援課の連絡先を記載し、玄関に掲示している。また、意見箱を設置し、第三者委員の氏名と連絡先を玄関に掲示している。運営委員会やクラス懇談会で要望や苦情を聞いたり、各行事毎にアンケートを実施して、保護者の意見、要望を聞き取っている。保護者からの要望は職員会議で報告し職員ノートで周知している。また、保護者からの要望や意見は、職員会議や昼ミーティングで報告し、解決策が理解・周知されている。 ・保育室内外は衛生マニュアルに基づき清掃を行い、清潔に保たれている。保育室の窓は開けることができないが、非常口や玄関を開け換気を行い、大型空気清浄器やトイレに消臭効果のあるタイルを使用している。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏まつり、運動会に地域住民を招待している。近隣の保育園には子どもたちが案内状を届けている。 ・区の園長会、虐待防止会議、幼保小連絡会などに出席し、意見、情報交換をしている。 ・年度始めの職員会議で園行事への呼びかけや散歩時の声かけの工夫など、地域支援につなげていくことについて話し合っているが、園の専門性を活かしたサービス提供には至っていない。 ・園の情報は、ホームページで公開し、毎週木曜日に育児相談を実施している。育児相談や行事のお知らせなど、園の門扉に掲示したり、隣の一般会社や近隣の商業施設に行事のポスター掲示をお願いしている。また、子育て情報誌に年4回定期的に園の情報を掲載している。 ・近隣の小学校の2年生やデイサービスのお年寄りとの交流の機会を作っている。また、地域の祭礼の神輿を見に行ったり、神社の節分祭では豆まきを体験したり、地域と関わるよう努めている。 ・ボランティアの活動後、意見や感想も聞いてはいるが、ボランティアの意見を園の運営に反映するまでに至っていない。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念や基本方針については、全職員が入社時に研修を受けている。玄関に掲示し、必要に応じて園長が説明している。 ・園のパンフレット「入園のご案内」にはサービスの詳細が記載されている。設置法人としてホームページがあり、法人の経営・運営状況は、ホームページなどで積極的に公開されている。 ・全職員が守らなければならない法・規律・倫理については、就業規則および業務マニュアルに記載されており、入社時研修や、入社後は代表研修や職員会議・リーダー会議・日常のOJTにより職員に周知し順守している。また、設置法人にコンプライアンス委員会が設けてある。 ・設置法人は事業運営に影響のある情報を収集・分析している。収集・分析された重要情報は幹部職員間で検討され、重点改善課題として設定されている。その結果は園に伝えられ、職員会議で話し合いの上、全職員一体と



	<p>なって取り組むことにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年～28年の園の長期計画を作成している。24年度の単年度計画は「元気な身体と優しい心の土台作り、地域との交流会の充実、一人ひとりに向き合う保育を、地球環境に取り組む」を策定し、取り組んでいる。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 設置法人が策定した人材育成の計画があり、理念・方針をふまえた保育を実施するようにしている。必要な人材の補充については園長が設置法人に申請し、補充を行っている。 園長と職員とで常勤は年3回、非常勤は年2回個人面談を行い、目標の設定と達成度の評価を行っている。また常勤職員は年2回、査定シートで自己評価を行っている。 設置法人は、新人・中途採用・主任クラス・園長などの階層別研修や自由選択研修を職員に実施している。内部研修は常勤職員・非常勤職員共に受講することができる。南区の研修交流会や設置法人からの社外研修の案内は職員に周知している。職員が希望する研修があれば、受講できるようにしている。 研修参加後はレポートを作成し、職員会議フロアー会議で研修の内容や学んだことを報告し、他の職員と情報を共有するとともにクラス運営に反映させている。作成したレポートは全職員が閲覧できるように保管されている。 第三者評価を受審し、職員の振り返りや自己評価をもとに、園としての課題を明らかにし、改善に取り組んでいる。保育所としての自己評価は、園の理念や保育の方針、保育課程に沿って行い、園としての課題や日常保育の向上に取り組んでいる。 主任は各クラスの職員の状況を把握し、精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう、シフトの調整など具体的な配慮を行い、指導や助言をしている。 実習生は毎年受け入れており、実習生の希望を取り入れて日程プログラムを組んでいる。実習生からの意見や感想は保育の参考にしている。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念を「安全と安心を第一に」「お子様にとっていつまでも思い出に残る施設であること」「本当に求められる施設であること」とし、園目標は「物を大切にしましょう」「元気にあいさつをしましょう」「地球環境問題に取り組む」の通り、利用者本人を尊重したものとなっている。 ・運営方針は子どもの「自ら伸びようとする力・後伸びする力を育てる保育を」、子どもの感受性や好奇心を自然な形で伸ばす「五感で感じる保育の充実を」とし、保育課程は、理念・運営方針に基づき子どもの最善の利益を尊重し、地域や周囲の環境も考慮して作成している。 ・運営理念や基本方針については、全職員が入社時に研修を受けている。玄関に掲示し、必要に応じて園長が説明している。 ・保育課程の作成は常勤職員が行うが、昼ミーティングの時に非常勤職員と話し合う機会を設けており、職員会議の議事録は全職員が閲覧している。 ・職員は毎日の活動の中で子どもの態度や表情、意見や要望から子どもの意思を汲み取り、指導計画に反映させている。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に、クラス担任が保護者と個別面談をし、子どもの気になる点、既往症などについて聞き記録している。給食については、栄養士が保護者と面談し、食物アレルギー、離乳食の進み具合などの話をしている。また、気になることがある場合は、園長が面談している。面談内容は、面接シートに記録している。 ・ならし保育については入園前に保護者に説明し、基本は1週間だが、保護者の要望によって柔軟に対応し、無理なく入園できるようにしている。 ・0～2歳児までは個人の連絡ノートで、3歳児以上はクラスノートで毎日の保育の様子を伝えている。3歳児以上でも要望があれば個人の連絡ノートで情報交換している。 ・保育課程に基づいて、年齢ごとに年間・月間指導計画、週案を各クラスの担任が作成している。年間指導計画は4期に分けて作成し、月間・週案共に評価・反省して、次の計画に活かしている。経験年数が浅い職員が多いが、子どもの主体性を育てよう指導計画作成時に話し合っている。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・保育室内外は衛生マニュアルに基づき、毎日清掃を行い、清潔に保たれている。
- ・保育室の窓は開けることができないが、非常口や玄関を開け換気を行い、大型空気清浄器を設置したり、トイレに消臭効果のあるタイルを使用したりして、気になる臭いなどはない。
- ・室内温度は夏26℃～27℃、冬23℃～24℃、湿度は40～50パーセントに保つようにし、乾燥しているときは濡れタオルを干すなど工夫し、冬には加湿器を使用している。
- ・パーテーションやサークル、ロッカーなどを使用して保育室を仕切り、小集団保育が行われている。建物の構造上、食べる、寝る、遊ぶの機能別の空間の確保は難しいが、給食の後、清掃してから布団を敷き、カーテンを引いて照明を落として薄暗くし、静かに眠ることができるよう、環境づくりに配慮している。5歳児が午睡をしない時期になると保育室の配置を変更し、入口近くに5歳児室を移動して、他クラスの騒音にならないよう配慮している。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力

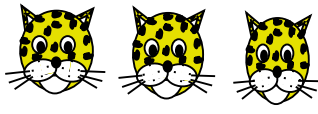


- ・0～2歳児の個別指導計画は、各クラスの担任が作成している。3～5歳児についても、特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成している。
- ・個別指導計画の作成見直しは定期的（月1回）に見直すのみでなく、面談や送迎時を利用して保護者と話し合いながら、子どもの発達状況に合わせ柔軟に変更・見直しを行っている。
- ・子ども一人一人の個人ファイルを作成し、児童票、入園時家庭調査票、児童健康調査票などを、子どもや家庭の個別の状況・要望を決められた書式に記録し、全職員がいつでも閲覧できる。年2回の健康診断の前に、個別の記録を保護者に返却して情報を更新してもらい、最新の情報が記録されている。
- ・進級時は、前担任職員と新担任職員で引き継ぎを行い、重要な申し送り事項は記録して伝達されている。
- ・園長が保育所児童保育要録を小学校へ届けたり、送付している。届ける際、校長または副校長と話し合っている。


I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する子どもの受け入れは、南区こども家庭支援課や設置法人の心理アドバイザーと連携しながら、ケース会議で職員が話し合い情報を共有している。ケース会議に出席しなかった職員には議事録で周知している。障がい児の受け入れ姿勢や個別指導計画の立て方などは研修を通じて学んでおり、障がい児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができている。
- ・虐待対応マニュアルがあり、虐待の定義や早期発見のポイントなどは入社時の研修で学び、職員会議で話し合う機会を設けたり、研修に参加したりして、全職員に周知されている。
- ・虐待が疑わしい場合や明白になった場合は、中央児童相談所や南区こども家庭支援課、設置法人に迅速に通告・相談する体制を整えている。
- ・食物アレルギーのある子どもは、保護者との連携を密にとって、除去食申請に対する主治医意見書に基づいて除去食や代替食を提供し、半年に1回、指示書を更新している。
- ・職員はアレルギーに関する研修を受け、職員会議で情報を共有し保育に活かしている。食物アレルギーについては栄養士とともに必要な知識や情報を共有し、全職員が周知している。
- ・外国籍や帰国子女に関しては、文化や生活習慣、考え方を入園前や年2回の面談、送迎時に保護者から聞き、異なる文化を尊重し、柔軟に対応することを心がけている。意思疎通の困難な子どもに対しては、ゆっくり話をしたりジェスチャーで伝え、保護者にはひらがなで連絡事項を伝えたり、配布物を読んで説明するなど対応している。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前の説明会や入園時に配布する「入園のご案内（重要事項説明書）」や玄関に、設置法人や外部の苦情解決機関として南区こども家庭支援課の連絡先を掲示している。園内には意見箱を設置し、第三者委員の氏名と連絡先を玄関に掲示してある。運営委員会やクラス懇談会で要望や苦情を聞いたり、各行事毎にアンケートを実施したりして、保護者の要望や苦情を聞き取っている。 ・保護者からの要望は職員会議で報告し、職員ノートで周知している。また、クレーム受理票には記載されていないが、保護者からの要望や意見は、職員会議や昼ミーティングで報告し、解決策を理解・周知している。 ・クレーム受理票には平成19年から記載がないが、受審を期に改善を行い、データを蓄積し、解決に向け「保護者要望・クレーム対応について」のシートを作成した。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受審後作成した「保護者要望・クレーム対応について」を活用し、保護者からの要望や苦情は些細なことでも記載して全職員へ周知し、今後の再発防止に活かすことが期待されます。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ-1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各保育室に絵本の棚を設けてあり、2～5歳児の幼児フロアー共有のおもちゃの棚がある。手作りのおもちゃや、糸通し、おままごとなどの遊具を用意し、年2回入れ替えを行っている。 ・3～5歳児の保育室の仕切りをなくし、身体をつかう遊びをしたり、マットを敷いてブロックや電車、ままごとなどの遊びを分けたりしている。 ・ごっこ遊びをしたり、大型マットを組み立ててお風呂や家を作ったり、空き箱やダンボールなど廃材を利用して制作している。保育室に「お手紙ポスト」があり、子どもたちはお手紙ごっこを楽しんでいる。また、夏には週2回のプール遊びや、色水遊び、泡遊びをしている。 ・かけっこや鬼ごっこなどルールのある遊びを通し、ルールを守ることで遊びが楽しくなることを学んでいる。 ・園庭でピーマン、ブロッコリー、オクラなどの栽培を行い、収穫したものは、給食の食材やクッキング保育の際に子どもたちに提供されている。また、5歳児クラスで、金魚を飼育し、生命の大切さを学んでいる。 ・職員は、子ども同士のケンカは危険のない限りは見守り、子ども同士で解決できるように援助している。 ・天気の良い日は屋外で遊び、雨の日も室内でマット、巧技台を使用して体を動かしている。 <p><工夫している点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～5歳児の異年齢グループ活動は、5月から毎月1回行い、絵本の主人公の名前をチーム名にして、給食、お昼寝、散歩をはじめ、運動会のゲームやクリスマス生活発表会など、子どもたちの意見を取り入れながら交流を深めている。 <p><コメント・提言></p> <p>クラスの子ども全員が同じようなおもちゃを手に入れている状況がありました。子どもたちが自分でおもちゃを選択し、好きな遊びが出来るような環境作りを、工夫されることをお奨めします。</p>

II-1 保育内容[生活]



- ・職員は、子どもの喫食状況や健康状態に応じて、盛り付け量を加減したり、「にんじん頑張れるかな」など声かけし、楽しく食べられるよう配慮している。
- ・職員が子どもを抱っこして授乳し、離乳食は自分から食べようとする気持ちを大切に、スプーンを嫌がる子は手で食べることも自由に行っている。
- ・2歳児から、年齢に応じた当番活動で、配膳や食器の片付けなどを楽しみながら関わっている。5歳児のお泊り保育では、育てた野菜を使用した食事作りを通し、調理への関心を育んでいる。
- ・皿、茶碗は割れにくい強化磁器を使用し、成長、発達に応じた茶碗の大きさ、スプーンでもすくいやすいような深さの違う皿など使い分けている。食具もスプーン、フォーク、箸と一人一人の段階を踏まえて使用している。
- ・栄養士は子どもたちの喫食状況を観察し、食材の切り方、調理法、形態を工夫している。給食会議で話し合った結果を設置法人に報告している。
- ・毎月の献立表は前月末に保護者に配付し、毎日の献立とサンプルを玄関に展示している。給食日よりでは人気献立はレシピを紹介している。年1回、給食試食会を行い、年齢に合った食材形態、味付けなどを保護者に伝えている。
- ・延長保育の希望者には夕食のサービスを提供しており、急な場合も17時までには連絡があれば、柔軟に対応している。
- ・午睡時には、カーテンを閉め、エアコンの温度を調整している。職員は抱っこや添い寝、背中をトントンするなど、子どもが寝付きやすいようにしている。
- ・0歳児は5分間隔、1歳児は10分間隔で呼吸と体位の睡眠状況を記録し、乳幼児突然死症候群対策を行っている。
- ・5歳児は年明けから就学に向け午睡を一斉活動とせず、散歩に行ったり、園庭で遊んだり、静かに制作をして過ごしている。
- ・一斉活動の前後や昼食前、午睡前など声かけして、トイレ誘導しているが、自立している子は自分のペースやタイミングでトイレに行っている。トイレトレーニングは保護者と連携しながら進めている。
- ・職員はおもらしをした子にはさりげなく対応している。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・マニュアルに基づき、子どもの健康状況、身体測定結果を「個人健康記録票」に記録している。年2回の健康診断後に、既往症や予防接種状況など子どもの様子について最新の情報を保護者からを得ている。日々登園時に保護者から今日の様子を聞き取っている。
- ・歯磨き指導は1歳から行っている。5歳児まで職員が仕上げ磨きをしている。
- ・健康診断は年2回、歯科健診は年1回行い、結果票を保護者に当日配付している。健康診断の前に嘱託医に伝えて欲しいことを保護者に呼び掛けている。園の嘱託医がかかりつけ医になっている家庭が多く、通常の診察においても連携が図れている。
- ・入園説明会で、重要事項説明書に記載した「感染症について」に沿って保護者に説明している。保育中に発症または疑われる場合は、保護者に速やかに連絡している。園内での感染症発症のお知らせを、玄関ホールに掲示して伝えている。
- ・設置法人の内部研修で感染症について学び、フロー会議や職員会議で情報を共有している。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理
[衛生管理]




- ・衛生管理に関するマニュアルがあり、マニュアルは法人内の園長会議で見直している。変更した場合は、設置法人からの改訂版で確認している。
- ・マニュアルの内容は入社時研修や毎月の社内研修においても理解、把握に努めている。
- ・マニュアル、保育室清掃記録表に基づき清掃が行われている。一斉活動後、給食前、午睡前には掃き掃除、場合によっては拭き掃除をまめに行っている。
- ・乳児の布団は洗浄乾燥を毎月行っている。幼児は洗浄乾燥の必要のないマットを使用しているが、必要に応じてアルコール消毒をしている。
- ・建物の構造上窓が少なく、自然換気が難しいため、大型空気清浄機を設置して対応している。

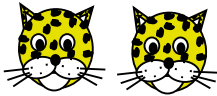

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理
[安全管理]



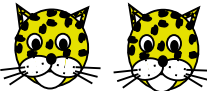


- ・ロッカー、布団庫に転倒防止対策をしている。年齢ごとの「室内、室外事故防止チェックリスト」に基づき毎日事故防止のための点検を行っている。乳児用ロッカーの取っ手で子どもが指を挟む危険性があったため、取っ手の裏側に画用紙を張り、子どもの力では開けられないよう工夫し、事故防止策を講じている。
 - ・緊急連絡網を事務室に掲示し、通報、消火、避難訓練を毎月実施している。散歩中の非常時に備え、避難先を明記したカードを持ち出しリュックに常備している。
 - ・保育中の事故、怪我は必ず保護者に伝えている。昼ミーティング、職員会議にてケガ、事故の報告を行い、各クラス及び園全体で再発防止を心がけている。
 - ・園玄関は電子錠で常に施錠されている。門扉の施錠に関しては現段階では取り組みが不十分で、施錠について検討中である。
 - ・年に1回不審者を想定した訓練を行っている。合言葉にて安全に避難誘導できるようにしている。
- <コメント・提言>
防犯対策に関して、保護者から不安視する声が聞かれます。園として改善に向けて検討中とのことですので、外部からの侵入防止策の強化が期待されます。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの呼び方を含む言葉遣い、言葉かけ、接し方を職員会議で振り返り、職員一人一人の子どもへの対応の見直しをしている。職員は、穏やかでゆったりとした言葉で子どもたちに話しかけている。話の内容によっては声のトーンを落とし、子どもが意識を向けるように話し、子どもの意見を引き出している。 ・子どもの意思を尊重し、気持ちに寄り添い、子どもを尊重した保育を行うことを、全職員が確認しあっている。 ・事務室、おもちゃ置場の前を子どもが一人で落ち着いて過ごせる空間として利用している。 ・職員入社時に個人情報のあり方や守秘義務の重要性を説明、確認している。保護者には個人情報の取り扱いについて家庭調査票で各保護者の同意の有無を記載してもらい確認している。 ・日常の保育の中で、性別による区別は行っていない。 ・職員会議やフロアー会議で性差に関して無意識に言葉に出していないかなど確認し、気をつけるようにしている。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針は、運営委員会やクラス懇談会で話し、議事録を保護者に配付している。また、園だよりやクラスだよりで方針に沿った保育内容や取り組みを伝えている。クラスだよりは、子どもの普段の様子や成長ぶり、職員の思いなどを分かりやすく丁寧に記している。 ・送迎時には保護者と話をするよう努め、担任が不在の場合も子どもの様子が伝えられるよう口頭や延長保育日誌で引き継ぎを十分行っている。 ・個別面談は年2回実施し、希望があれば随時面談の機会を作っている。相談は内容に応じて園長が適宜アドバイスし、継続的にフォローできるように個別面談記録票に記録している。 ・毎月園だより、クラスだよりのほか、給食だより、英語・リトミック・体育だよりを発行し、運営委員会、クラス懇談会で保育内容、目的を分かりやすく説明している。また、行事や保育の様子は写真などを利用して分かりやすく掲示し、インターネットのホームページでも知らせている。 ・年2回、保育参観の期間を5日間設け、その中で都合の良い日を選んでもらっている。 ・現在保護者会組織はないが、保護者有志が中心となって行っている自主的な活動を園として見守っている。 <p><工夫している点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の第三者評価受審時の家族アンケート結果を踏まえ、運営委員会、クラス懇談会で説明する際、大きく理念、方針を書いた模造紙を用意し、視覚からも情報が入るよう工夫し、園の運営理念や基本方針を認知、理解されるよう努めている。


評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏まつり、運動会に地域住民を招待している。近隣の保育園には子どもたちが案内状を届けている。 ・毎年、卒園式に使用する椅子を町内会館から借りたり、地域ケアプラザと交流を図ったりして地域との関係構築に努めているが、施設開放や備品等の貸出し等は行っておらず、協力して行事を行うなど計画的な交流、連携を図るまでには至っていない。 ・地域のフォーラム南太田でクリスマス生活発表会を実施し、5歳児クラスのお泊り保育時にはこども宇宙科学館へ遠足に行っている。日常の保育ではコミュニティハウスへ遊びに行ったり、地域の文化、レクリエーション施設を利用している。 ・散歩の途中出会った近隣の方々へ挨拶をしたり、お菓子や食材をスーパーに買いに行ったりと、地域の人たちと交流している。
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週木曜日に園長が対応し、育児相談を実施している。相談の結果、入園につながった事例がある。 ・育児相談や行事のお知らせなど、園の門扉に掲示したり、隣の一般会社や近隣の商業施設に行事のポスター掲示をお願いしている。 ・区のこども家庭支援課、中央児童相談所など、相談内容に応じて密に連絡をとり、必要な情報を共有している。 ・関係諸機関、地域の団体の連絡先をファイル保管し、職員の情報共有を図っている。訪問調査後ただちにファイル保管している関係機関をリストアップし、事務所に掲示した。


評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏まつり、運動会に地域住民を招待している。近隣の保育園には子どもたちが案内状を届けている。 ・毎年、卒園式に使用する椅子を町内会館から借りたり、地域ケアプラザと交流を図ったりして地域との関係性構築に努めているが、施設開放や備品等の貸出し等を行っておらず、協力して行事を行うなど計画的な交流、連携を図るまでには至っていない。 ・地域のフォーラム南太田でクリスマス生活発表会を実施し、5歳児クラスのお泊り保育時にはこども宇宙科学館へ遠足に行っている。日常の保育ではコミュニティハウスへ遊びに行ったり、地域の文化、レクリエーション施設を利用している。 ・散歩の途中出会った近隣の方々へ挨拶をしたり、お菓子や食材をスーパーに買いに行ったりと、地域の人たちと交流している。 ・近隣の小学校の2年生やデイサービスのお年寄りとの交流の機会を作っている。また、地域の祭礼の神輿を見に行ったり、神社の節分祭では豆まきを体験し、地域と関わるよう努めている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中の保育園としての理解促進に向け自治会などと協力するなど、地域との関係性を深めていくことが期待されます。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のホームページ閲覧、園のパンフレットを区の子育て支援センターに常置している。また、区の子育て支援の取り組みである「南なんデー 保育園、横浜保育室であそぼう」でパンフレットを提供するなど園の案内や情報提供に努めている。 ・子育て情報誌に年4回定期的に園の情報を掲載している。 ・入園や育児支援に関する問い合わせが多数寄せられている。問い合わせや質問には、窓口の園長が丁寧に対応している。 ・見学は、希望者の都合を考慮しながら、子ども達の活動に支障のない日程や時間を調整している。
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生、ボランティア受け入れにあたり、職員には連絡ノートで伝えたり、会議を利用して話している。保護者には、お知らせを玄関ホールに掲示している。 ・マニュアルに沿って、受け入れ時の履歴書、誓約書、健康診断書など必要書類はファイリングし、保管している。 ・ボランティア終了後、感想や意見を聞く時間を設けているが、記録として保管はしていない。 ・実習生は毎年受け入れており、実習生の希望を取り入れて日程プログラムを組んでいる。 ・実習生は毎日反省、気づいたことなどレポートし、提出している。記された疑問や問題については翌日担当職員が答えている。予定の実習終了後に話し合いの時間を設けて、反省、振り返り、意見交換を行っている。実習生からの意見や感想は保育の参考にしている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアからの感想・意見を園運営に反映させサービス向上に活かせるよう、記録に残すことが期待されます。




評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人が策定した人材育成の計画があり、理念・方針をふまえた保育を実施するようにしている。必要な人材の補充については園長が設置法人に申請し、補充を行っている。 ・園長と職員とで常勤は年3回、非常勤は年2回個人面談を行い、目標の設定と達成度の評価を行っている。また常勤職員は年2回、自己査定を行っている。 ・設置法人は、新人・中途採用・主任クラス・園長などの階層別研修や自由選択研修を職員に実施している。内部研修は常勤職員・非常勤職員共に受講することができ、受講に当たってはシフトなど調整しながら受講している。南区の研修交流会や設置法人からの社外研修の案内を職員に周知している。職員が希望する研修があれば、受講できるようになっている。 ・研修参加後はレポートを作成し、職員会議フロアー会議で研修の内容や学んだことを報告し、他の職員と情報を共有化するとともにクラス運営に反映させている。作成したレポートは全職員が閲覧できるように保管されている。 ・常勤職員は年度初めに個人年間研修計画を立て、園長と個人面談をして年に2回研修計画の見直しをし、その職員に合った研修を行っている。 <p><コメント・提言> 非常勤職員にも研修の機会として、僅かな時間でも園内研修に参加し、研修受講した職員の報告が共有されるとさらに良いでしょう。</p>

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議・フロアー会議・クラス会議・昼ミーティングなどで個々の職員の日常の保育サービスの振り返りや、意見交換を行い、園長会議より持ち帰った事例を基に話し合い、スキル向上に努めている。系列園に行く機会や南区の交流会に行く機会を設け、サービスについて見直しを行う機会を設けている。また、年に1回、非常勤を含めた全職員に園の自己評価をしてもらい、結果を職員会議で報告し、振り返りをした。 ・設置法人の発達支援の心理アドバイザーなど、保育の技術の指導などを受ける仕組みがある。 <p><コメント・提言> 第三者評価の公表ファイルを作成し、保護者が閲覧できるようにすることをお奨めします。</p>

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験年数や習熟度に応じた役割や期待水準が記されている人材育成ビジョンがある。 ・職員は子どもや保護者の状況に応じて柔軟に対応し、後で園長に報告をすることになっている。 ・日常的な話し合いや、職員会議などでも職員から改善提案が出されている。最近では、お泊り保育の際に保育室のレイアウトを変更したが、通常保育でも「このレイアウトのまま使用しよう」という提案があり、実施した例がある。 ・園長と職員とで常勤は年3回、非常勤は年2回個人面談を行い、職員の満足度や意見、要望を把握している。また、必要があれば随時面談を行っている。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が守らなければならない法・規律・倫理については、就業規則および業務マニュアルに記載されており、入社時研修や、入社後は代表研修や職員会議・リーダー会議・日常のOJTにより職員に周知し順守している。また、設置法人にコンプライアンス委員会が設けてある。 ・設置法人の経営状況や保育園の情報は、ホームページなどで積極的に公開されている。 ・保育サービスに関する不正や不適切事例は設置法人の主催する園長会議で報告され、その内容を各園に報告し、職員は周知している。また、事例に関する園内研修をおこなったり、ルールの確認をしたりするなど、不適切な行為を行わないよう啓発している。 ・玄関に園目標「地球環境問題に取り組む」を掲示し、環境問題への取り組みについて明文化している。ゴミの減量化や省エネ活動を、子どもや保護者と共に行っている。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の理念・基本方針は玄関に掲示し、職員の目に留まるようにしている。 ・理念・基本方針は入社時研修で学び、入社後も園長が職員会議や面接時に話したり、理解できているかを確認し、日々の保育に活かせるようにしている。 ・重要事項を決定する際は、園長と全保護者が出席する運営委員会（年3回）の理解を得ている。今年度の運動会の日程の変更についても、丁寧に説明した。 ・設置法人では階層別主任育成研修などにより、主任クラスのスーパーバイザーへの育成を図っている。 ・主任は職員一人一人と面談するなど、個々の職員の業務状況を把握できるしくみがあり、有効に機能している。 ・主任は園長と連携し、常勤職員および非常勤職員の個々の能力や経験を把握しており、それぞれに見合った指導や助言をしている。 ・主任は各クラスの職員の状況を把握し、精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう、シフトの調整など具体的な配慮を行っている。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人は事業運営に影響のある情報を収集・分析している。収集・分析された重要情報は幹部職員間で検討され、重点改善課題として設定されている。 ・園運営上の重要改善課題はエリアマネージャー会議や園長会を通じて園に伝えられ、職員会議で話し合いの上、全職員一体となって取り組むことにしている。 ・平成24年～28年の園の長期計画を作成している。24年度の単年度計画は「元気な身体と優しい心の土台作り・地域との交流会の充実・一人ひとりに向き合う向き合う保育を・地球環境に取り組む」を策定し、取り組んでいる。 ・次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たな仕組みを設置法人が常に検討している。 ・設置法人は、園長はじめ職員各階層別の年間研修計画を策定して、次代に備えた職員育成を行っている。 ・運営に関し設置法人において関係機関や大学教授などの専門家から意見を取り入れ、運営や保育サービスの改善に努めている。

利用者家族アンケート

施設名:アスク吉野町保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数54名、全保護者48家族を対象とし、回答は27家族からあり、回収率は56%だった。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答は96%(満足44%どちらかといえば満足52%)と高い評価であった。

◇ 比較的満足度の高い項目

1) 日常の保育内容 遊びについては、6項目の設問全体で肯定的な回答は93%と高い満足度である。中でも「クラス活動や遊びについて」「遊びを通じて友達や保育者とのかかわりが十分もっているか」「遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては」共に100%の高い評価を得ている。

2) 日常の保育内容 生活については、7項目の設問全体で肯定的な回答は(おむつはずしに関する設問で対象にならない回答を除いて)93%と高い評価であった。一方で「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には」どちらかといえば不満の回答が22%あった。

3) 入園した時の状況については設問全体の肯定的な回答は91%と高い評価であった。一方で「入園後に食い違いがなかったなども含め、費用やきまりに関する説明について」は、否定する回答が15%あった。

4) 保育園に関する年間の計画についての設問全体の肯定的な回答は91%の満足度である。

◇ 比較的満足度の低い項目

1) 保育園の快適さや安全対策について、4項目全体の肯定的な回答は77%となっているが、「施設設備について」は否定的な回答が30%、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策については」は、同 19%あり、何らかの対策が必要である。

2) 園と保護者との連携・交流について、7項目の設問全体の肯定的な回答は88%となっているが、「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換について」の否定的な回答が15%あった。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	15%	71%	7%	7%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	74%	22%	0%	0%	0%	4%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	48%	37%	0%	0%	15%	0%
	その他: 見学していないのでわからない					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	41%	48%	0%	7%	4%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	56%	40%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	59%	33%	8%	0%	0%	0%
	その他: 面接時よく聞いてくれた職員がいなくなってしまう、喘息と知っているのかよくわからない					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	56%	44%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	55%	30%	15%	0%	0%	0%
	その他: 毎年決まりが変わっていき、投薬を受け付けなくなり不便					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	52%	37%	11%	0%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	56%	37%	7%	0%	0%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	59%	41%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	52%	33%	11%	0%	4%	0%
	その他: 午前だけでなく午後も外に出してほしい。					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	48%	37%	4%	0%	11%	0%
	その他: 本やおもちゃの傷みが激しく古いものやキャラクターも多い。自由に使える位置に。					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	41%	44%	11%	0%	4%	0%
	その他: 何か工夫してやってほしい					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	56%	44%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	52%	48%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	70%	26%	4%	0%	0%	0%
	その他: ありがたく思っています					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	59%	41%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	63%	37%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	52%	40%	4%	0%	0%	4%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	48%	38%	7%	0%	7%	0%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	52%	41%	7%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	41%	37%	22%	0%	0%	0%
	その他: 傷ついて帰宅することがあるが園から報告がない					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	26%	37%	30%	0%	7%	0%
その他： バギーの通路に物が置かれており不便。空調や風通しがよくない。						
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	26%	59%	11%	0%	4%	0%
その他：園が狭いので難しい						
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	41%	36%	15%	4%	4%	0%
その他：						
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	30%	51%	11%	4%	4%	0%
その他： 口頭で言ってもらえると助かる。掲示板でのお知らせは目立たないので見落とす						

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	40%	52%	0%	0%	4%	4%
その他：						
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	59%	33%	0%	0%	4%	4%
その他：						
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	63%	29%	4%	0%	0%	4%
その他：						
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	40%	37%	15%	0%	4%	4%
その他：						
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	41%	44%	7%	0%	4%	4%
その他：						
保護者からの相談事への対応には	33%	55%	4%	0%	4%	4%
その他： 若い先生が多いので仕方ないかと思う						
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	48%	44%	0%	0%	4%	4%
その他： 利用していないのでわからない						

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	48%	44%	0%	0%	4%	4%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	63%	33%	0%	0%	0%	4%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	52%	22%	4%	0%	15%	7%
	その他:該当していないのでわからない。					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	59%	30%	7%	0%	0%	4%
	その他:					
意見や要望への対応については	37%	47%	4%	4%	4%	4%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	44%	52%	4%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

アスク吉野町保育園

◇0歳児

遊び

午前のおやつ後に、自由遊びの中で、子どもたちはペットボトルで作った「マラカス」や装飾をしたミルクの空き缶で「あな落とし」を職員と一緒に楽しんでいた。遊びの途中で泣き出してしまった子どもは、職員の膝に乗せられたり、抱っこで園舎内の他の部屋に「散歩」に行ったりして気分転換し、ほどなく泣きやんだ。職員が、ミルクをほしがる子どもの様子を見て抱っこして与えている。また、部屋の隅を背の低いパーテーションで仕切って眠る子どもなど、一人ひとりのペースに合わせて過ごしている。

◇1歳児

散歩

1歳児はプール遊びがない曜日なので、園から近くの日蔭のある公園に散歩に出かけた。まず、みんなでかけっこをする。走るのが速い子、マイペースでゆっくり走る子、職員と手をつないで走りたがる子、走りたくない子など様々だ。遅い子どもには、みんなで「頑張れ、頑張れ」と、応援する。走りたくない子どもを職員はそっと見守っていると、急に走り出して楽しそうに参加していた。次に、舟の形をした滑り台で遊んだ。みんな順番を守って滑ったり、階段もしっかり上っている。上り棒やくさりの階段にチャレンジする子どももいる。しばらくすると、職員にレジャーシートを敷いてもらって、冷たいお茶をおいしそうに次々おかわりしていた。バギーに乗って、園に戻り、汗をかいた体をシャワーで流し、気持ちよさそうにしていた。

排泄

散歩の後、シャワーをあびる前に、トイレに向かう。トイレに座るだけの子ども、トイレで成功した子どもなど、個人差がある。職員はどの子どもにも褒めて、「上手に座れたね」「やったね」と、声掛けしている。どの子どもも満足そうな顔をしている。

◇2歳児

食事

少し深めのワンプレートに、おかずとご飯が一緒に盛り付けてある。スープはご飯が食べられなくなるので食事が終わりそうなタイミングで出され、子どもたちは、おいしそうに飲んでいました。

子どもたちはフォークで、上手に食べている。おかわりする子ども、マイペースでゆっくり食べる子どもなど様々だ。職員は、せかすことはせず、「頑張ったね、あと野菜だけだね」「おいしいね」「ぴかぴかだね」「すごいね」など声掛けをしている。

◇3歳児

遊び

朝の合同保育の後、職員が絵本「おばけの遠足」を読み聞かせている。その後、絵本に出てきたおばけをクレヨンで思い思いのイメージで描いている。描き終わった子から、はさみでおばけを切り取り、お面風の作品に仕上げている。子どもは「先生、見て見て！できた」と自慢げに満足そうな表情で職員に見せている。職員は、笑顔で「上手だね」とほめ、はさみがうまく使えない子には、職員が手を添えて怪我のないよう配慮している。作品はすぐに壁に飾られていた。その後、遊具を使って遊び、片付けの時間になると、自分が片付けたかったおもちゃをほかの子に片付けられてしまって納得がいかず、ぐずっている子がいる。職員はそのおもちゃを子どものところに持って来て「○○ちゃん、おかたづけお願いね」と話しかける。子どもはべそをかきながらも自分で片付けを終えられたことで満足した様子だった。

排泄

保育の節目に一斉にトイレに誘っている。時間がかかる子も「でたら教えてね。」と職員は配慮し、時間を見計らって様子を見に行っている。子どもは行きたい時に自由にトイレに行っている。

食事

当番の子どもが、名前が書かれているトレイや箸を配っている。当番の子は間違えずにその子のテーブルに配膳している。配膳が終ると、当番の子が「いただきます」のあいさつをしてから一斉に食べ始める。フォークを使っている子どももいるが、ほとんどの子どもが上手に箸を使っている。基本的には完食できる喜びを感じて欲しいので、その子のペースに合わせゆっくり時間をかけて見守っている。食べることに飽きてしまった子には「このにんじん食べたらごちそうさませよう。」と優しく促しているが、無理強いはしていない。食事が終わった子からごちそうさまをして食器を片づけている。同じ食器ごとに丁寧に重ねている。

◇3～5歳児

異年齢交流の遊び

朝の各クラスでの活動の前に3～5歳児が集合して輪になって座り、友だちの良いところを見つけてほめるゲームをして遊んでいた。「○○ちゃんはやさしい」「○○ちゃんのTシャツ

がかわいい」など、友だちと褒め合っていた。

午睡準備

食事が終わると、3歳児は自分の席で歯をみがき、4～5歳児は各自で椅子を洗面台のそばに持って行き、座って歯みがきしている。5歳児まで職員が仕上げ磨きをしている。パジャマに着替えた子から午睡までの時間、おもちゃやパズル、絵本など好きなことをして遊んでいる。

◇4歳児

制作

クラスでの活動はエッチング風作品作り。クレヨンで色とりどりにぐちゃぐちゃと色を重ねていく子、几帳面にモザイク風に丁寧に塗っている子など、自分のペースで進めている。職員も一緒に同じ作業をしている。おしゃべりもなく夢中になっている。出来上がった作品はすぐに飾られていた。

◇5歳児

クラス活動・プール遊び

クラス活動の前半は翌日のお泊り保育の準備を行っていた。子どもたちは模造紙を囲んで着席し、スケジュールに沿って書き込んでいく。子ども宇宙科学館へは電車を利用するため「切符はちゃんと並んで買うんだよ。」「電車の中で騒いだらだめなんだよ。」など職員は子どもから意見を引き出している。夕食・朝食作りのことになると「サンドウィッチには何をはさむの?」と真剣に話し合っている。予定が書き込まれるごとに子どもたちの頭が机の中心に集まっていき、楽しみにしている様子がうかがえる。

後半は外に出てプール遊び。職員の話や注意を注意深く聞いている。子どもたちは始め静かに2つのビニールプールを行ったり来たりしていたが、だんだんとバタ足をしたり、バケツで水をかけ合ったりと動きが活発になった。

食事

子どもたちは食欲が旺盛で、自分で食べられる量をよそい、おかわりを自由に行っている。ごはんが足りなくなると職員が調理室から追加していた。「お化け屋敷が怖かった。」「○○ちゃんは泣いちゃったんだよ。」「花火きれいだった。」「プールも入ったよ。」などお泊り保育の話をしながらか食べていた。

平成 24 年度第三者評価事業者コメント

(アスク吉野町保育園)

【受審の動機】

第三者の公正で信頼性のある機関により、専門的かつ客観的な視点で評価していただくことで、運営方針である「利用者に本当に求められているサービスを提供する」ということをはじめとした方向性が確実に利用者に届いているかを把握していきたいというねらいが受審の動機です。

また、評価機関の選定につきましては、昨年と同じ評価機関に評価を依頼することで、昨年度の課題に対する取り組みがどのように評価され、新たな課題は何かを明確にしたいと考えております。また運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけると考えました。

評価結果を公開することにより、地域に開かれた保育園として信頼を得るとともに、保護者が自らの判断で保育園を選択するお手伝いできればと思っています。

今回の評価を通し、結果を真摯に受け止め、更なるサービスの向上を目指していきたいと考えております。

【受審した結果】

今年度の第三者評価を受審し、自己評価での個々や自園の見直しを図ったことは大きな収穫となりました。日常の保育では気がつかなかった問題や具体的にどのようにすべきか悩んでいた問題が明確になり、新たな気づきが得られる良い機会となりました。

また、利用者家族アンケート内の日常の保育内容と遊びに関しまして、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせますと 100%という大変嬉しい結果をいただきました。ひとえに保護者の皆様、関係者の皆様の常日頃からのご協力のおかげと考えております。また職員としましても自らの保育をこの様に評価していただき、自信につながる結果となりました。今後も「利用者が本当に求める保育サービス」をさらに追及し提供するために、職員一丸となってより一層努力していきます。

また、地域との交流・連携につきましては、昨年度から課題であり、ボランティアの受け入れを実施いたしましたが、ボランティアからの意見を園運営に反映するまでに至ってありませんでした。今後は積極的なボランティアの受け入れ活動と共に、意見や感想を取り入れ園全体で話し合いよりよい園運営に活かしていきたいと考えております。

最後に今回の受審にあたって、ご多忙にも関わらずご利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様、ご尽力いただいた評価機関の皆様にご心より感謝申し上げます。